

令和6年度 埼玉県立図書館【重点取組評価シート】

基本方針	専門的な資料・情報や地域資料等を収集、蓄積し、県民・企業の調査研究に対する支援機能を充実する。					
重点目標1	専門的な資料・情報や地域資料等の収集・保存の充実					
重点取組	1-1	多様な媒体の資料・情報の収集・保存				
	1-2	資料保存環境の改善				
	1-3	地域資料等のデジタル化の推進				
評価	R4年度	A	3か年 最終評価	A	達成水準 評価	S・・・目標に達している A・・・目標の8割以上に達している B・・・目標の5割以上に達している C・・・目標の5割未満である D・・・成果・進捗がほとんど見られない
	R5年度	A				
	R6年度	S				
数値目標 達成状況	多様な資料の新規収蔵冊数 (図書、視聴覚、雑誌、オンライン資料)	投入	目標値	R4年度	R5年度	R6年度
		実績値	31,630点	31,630点	31,630点	
		達成率	34,214点	33,672点	33,507点	
		評価	108%	107%	106%	
	デジタルライブラリーのアクセス件数	活動	目標値	13,000件	43,000件	46,000件
		実績値	10,625件	49,633件	78,101件	
		達成率	82%	115%	170%	
		評価	A	S	S	
	県立図書館資料の満足度* (役に立つ度)	成果	目標値	4.2以上	4.2以上	4.2以上
		実績値	4.5	4.5	4.5	
		達成率	107%	107%	107%	
		評価	S	S	S	
* 県立図書館資料の満足度：5段階評価（来館者アンケートより算出）						
困難な取組における進捗状況評価	重点取組1-2		A	A	S	
困難な取組における進捗状況（R6年度）						
資料保存環境の改善（重点取組1-2）として、大きく分けて3つの取組を実施した。1つ目は、収蔵スペース創出に向けた取組である。複数所蔵している資料の除籍による単冊化を進め、スペースの確保を行った。2つ目は、資料保存環境の整備である。外部書庫資料運用検討委員会において、外部書庫内の空きスペースの環境測定を実施し、除湿機を新たに導入した。また、特別整理期間を活用し、令和4年度及び5年度に創出した各館の空きスペースへ資料を移動した。3つ目は、資料保存に関する人材育成の取組である。資料保存の知識と技術を習得するための職員研修を実施し、基礎知識の習得だけではなく、より実践的な研修を修了した司書職員は約半数となった。さらに、埼玉県立文書館が開催した「文書資料取扱講習会」に職員を派遣した。				進捗状況評価		
				S・・・予定どおりの進捗が見られる A・・・8割程度の進捗が見られる B・・・5割程度の進捗が見られる C・・・取組に着手している D・・・取組に着手していない（要努力）		
				評価		
				S		
令和6年度総括						
上記1-2の取組のほか、多様な媒体の資料・情報の収集・保存（重点取組1-1）については、令和4年度から始め、5年度に対象を拡大した県内のデジタル行政資料の収集を継続し、様々なデジタル行政資料を公開することができた。地域資料等のデジタル化（重点取組1-3）の推進では、新たに233点のデジタル化資料を作成し、デジタルライブラリーで381点を公開した。 <small>なお、デジタルライブラリーのアクセス件数の目標値は、指標策定時はトップページ等のアクセス件数を指標として計上していたが、図書館システムの更新により、資料詳細ページのアクセス件数を正確に算出することが可能になった。そのため、令和5年度以降の目標値は修正されている。</small>						
3か年（R4～R6年度）の総括						
重点目標1-1では、図書、視聴覚資料、雑誌及び県内自治体発行のデジタル資料を安定的に収集し、目標を上回る成果をあげることができた。この成果は、数値目標「多様な資料の新規収蔵冊数」の達成にも繋がった。重点目標1-2では、スペースの創出、収蔵環境の整備、職員の補修技術向上に取り組む、改善を進めることができた。重点目標1-3では、オーバーヘッドスキャナを活用した資料のデジタル化と公開を進めた結果、目標を上回る成果を達成した。 資料の長期保存のための環境整備は依然として重要である。また、デジタル資料を含めた蔵書の充実も、図書館にとって常に課題となっている。次期計画においても、安定的な活動とさらなる蔵書の充実を目指した取組が必要となる。						
埼玉県立図書館協議会（サービス評価小委員会）によるコメント						
3か年で進めてきたことについて成果が出ていることは評価できる。今後の新しい図書館の整備を見据えて、長期保存の環境整備をデジタル化や除籍等も含めた形で引き続き検討を進めてほしい。多文化サービスは今後提供にも力を入れてほしい。						

令和6年度 埼玉県立図書館【重点取組評価シート】

基本方針	ICTの高度化に対応した図書館サービスを推進する。								
重点目標2	ICTを活用した図書館サービス提供の推進								
重点取組	2-1	「デジタル地域資料アーカイブ」の検討							
	2-2	カウンターワークのデジタル化の推進							
	2-3	ICTによる非来館型レファレンスの充実							
	2-4	複写物の電子送信サービスの実施							
評価	R4年度	A	3か年 最終評価	A	達成水準 評価	S・・・目標に達している A・・・目標の8割以上に達している B・・・目標の5割以上に達している C・・・目標の5割未満である D・・・成果・進捗がほとんど見られない			
	R5年度	A							
	R6年度	A							
数値目標 達成状況	カウンターワークのデジタル化 取組件数	投入	目標値	R4年度	3件	R5年度	4件	R6年度	5件
		実績値	3件	5件	6件				
		達成率	100%	125%	120%				
		評価	S	S	S				
	ICTによる非来館型レファレンス 受付件数	活動	目標値	290件	300件	310件			
		実績値	327件	287件	228件				
		達成率	113%	96%	74%				
		評価	S	A	B				
	ICTによる非来館型レファレンス サービス利用のしやすさ満足度*	成果	目標値	4.5以上	4.5以上	4.5以上			
		実績値	3.6	4.0	3.9				
		達成率	80%	89%	87%				
		評価	A	A	A				
* ウェブアンケート等より算出									
困難な取組における進捗状況評価			重点取組2-1、2-2、2-4			S	A	A	
困難な取組における進捗状況（R6年度）									
<p>重点取組2-2では、ウェブサイトへの誘導や動画案内など、カウンター業務の効率化と利用者の利便性向上につながる取組を継続的に強化した。</p> <p>重点取組2-3では、図書館ウェブサイトのトップページからレファレンスページへの導線を改善し、申込フォームに案内を追加することで、利用しやすさを向上させた。また、県内図書館向けのレファレンス申込用掲示板を、よりアクセスしやすい図書館協力ウェブサイトに移設した。さらに、各種会議やイベントで非来館型レファレンスの利用方法などを説明したり、XやLINEなどのツールを活用した広報活動を行うなど、積極的に情報発信を行った。調査・相談サービスのチラシも改訂した。</p> <p>重点取組2-4では、補償金支払手続等を調整し、3月に特定図書館の登録を申請した。</p>			<p>進捗状況評価</p> <p>S・・・予定どおりの進捗が見られる A・・・8割程度の進捗が見られる B・・・5割程度の進捗が見られる C・・・取組に着手している D・・・取組に着手していない（要努力）</p>						
			評価			A			
令和6年度総括									
<p>数値目標の非来館型レファレンス受付件数については、県民向け及び県内図書館向け双方で受付方法の普及が十分ではなかった。重点取組2-2、2-3を実施したものの、効果が数字に現れていない。県民向けのレファレンスフォームでは、2月以降、受付件数が昨年度比で上回っており、引き続き使いやすさの改善や、レファレンスサービス全体の周知強化に取り組んでいく。</p> <p>複写物の電子送信サービスの実施（重点取組2-4）では、補償金支払いの仕組みは整いつつあるが、実施には至らなかった。特定図書館登録が完了次第、速やかにサービスを開始する予定である。</p>									
3か年（R4～R6年度）の総括									
<p>重点取組2-1は、令和5年度のシステム更新時にサブシステムとして導入することができなかったが、ジャパンサーチ上の「埼玉県」ページ（重点取組3-3）の充実へ注力することとした。重点取組2-2では、利用者登録、郵送複写及び座席予約の申込み手続のオンライン化などが実現した。重点取組2-3では、チャット型レファレンス受付ツールの導入検証を実施した。今後、新県立図書館の整備の方向性を見据えながら、利用者のニーズに合ったレファレンスサービスを整備するための参考にす。重点取組2-4では、サービスの実施に必要な規程・規約類の整備及び機器の設置、職員研修、特定図書館の登録申請を行った。ICTを活用した図書館のデジタル化は進展しているが、更なる改善とサービスの周知が課題である。</p>									
埼玉県立図書館協議会（サービス評価小委員会）によるコメント									
<p>非来館型レファレンスについては、利用者からのニーズを探り、ノウハウを蓄積しながら、広報の仕方を工夫して周知を進めてほしい。技術的な進展（生成AI等）を視野に入れながら新しいレファレンスの方法を検討してほしい。</p>									

令和6年度 埼玉県立図書館【重点取組評価シート】

基本方針	県民の課題解決を支援するため、調査相談など資料・情報の提供の充実を図る。					
重点目標3	資料・情報提供機能の強化・推進					
重点取組	3-1	情報提供ツールの作成				
	3-2	レファレンス協同データベースへのデータ提供				
	3-3	「埼玉サーチ」の拡充・展開 *ジャパンサーチ上の「埼玉県」のページ				
	3-4	電子書籍導入方法の検討				
評価	R4年度	A	3か年 最終評価	A	達成水準 評価	S・・・目標に達している
	R5年度	A				A・・・目標の8割以上に達している
	R6年度	A				B・・・目標の5割以上に達している C・・・目標の5割未満である D・・・成果・進捗がほとんど見られない
数値目標 達成状況	レファレンス協同データベース 事例公開件数	投入	目標値	R4年度	R5年度	R6年度
			実績値	210件	210件	210件
			達成率	99%	101%	105%
			評価	A	S	S
	情報提供ツールの活用件数 * <small>*ビジネス支援及び健康医療情報のリサーチガイドのダウンロード件数</small>	活動	目標値	430件	430件	430件
			実績値	381件	376件	493件
			達成率	89%	87%	115%
			評価	A	A	S
	「埼玉サーチ」満足度 * <small>*「埼玉サーチ」満足度：5段階評価（ウェブアンケート及び関連講座参加者アンケートにより算出）</small>	成果	目標値	4.0以上	4.0以上	4.0以上
			実績値	4.1	4.2	3.3
			達成率	103%	105%	83%
			評価	S	S	A
困難な取組における進捗状況評価			重点取組3-1、3-3、3-4			A A A
困難な取組における進捗状況（R6年度）						
<p>重点取組3-1では、パスファインダー8点、展示資料リスト15点、高校生向けの外国語資料・多文化理解のためのテーマ別ブックリストを新たに作成した。また、ダウンロード数が数値目標となっている2つのリサーチガイドの改訂版を作成した。</p> <p>重点取組3-3では、県図書館協会が中心となり、国立国会図書館と県内市町村立図書館との情報交換会を開催した。さらに、ジャパンサーチ上の「埼玉県」ページの活用に関する教員向けの研修動画を制作した。また、同ページに参加する博物館が1館増えた。</p> <p>重点取組3-4では、新県立図書館の整備の方向性を踏まえ、電子書籍・音声配信サービスの導入時期を見据えながら、プラットフォームや他県の導入状況に関する情報収集を継続的に行った。</p>				<p>進捗状況評価</p> <p>S・・・予定どおりの進捗が見られる</p> <p>A・・・8割程度の進捗が見られる</p> <p>B・・・5割程度の進捗が見られる</p> <p>C・・・取組に着手している</p> <p>D・・・取組に着手していない（要努力）</p>		
				評価		
				A		
令和6年度総括						
<p>上記3-1、3-2、3-4の取組のほか、情報提供ツールの作成（重点取組3-1）では、県庁オープンデーなどの大規模イベントにおける広報や、他の課所館・外部機関が実施するイベントでの積極的な広報により、大幅にアクセス数を増加させることができた。</p> <p>国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供（重点取組3-2）では、令和6年の年間データ被参照（アクセス）件数が全国1位となり、17年連続で国立国会図書館から御礼状を授与された。これは、量的充実だけでなく、質的な充実も果たしていることを示している。</p> <p>一方、ジャパンサーチ上の「埼玉県」ページの拡充・展開（重点取組3-3）では、満足度が下落した。また、一般利用者向けの講座開催や広報用チラシの配布が十分でなかった。</p>						
3か年（R4～R6年度）の総括						
<p>重点取組3-2は量・質ともに安定的に取り組むことができた。一方で、重点取組3-1では各ツールの更新を行ったが利活用の促進を図る取組が充分にできなかった。重点取組3-3では、国のデジタルアーカイブのポータル「ジャパンサーチ」との連携を実現したが、普及に関する成果は得られなかった。重点取組3-4では導入目的やプラットフォームの要件などをまとめることはできたが、具体的な導入手続きまでは進まなかった。</p> <p>目標全体としては、現状の維持・更新はできたが、機能の強化や普及促進には改善の余地がある。次期計画では、今期の成果と課題を踏まえ、より効果的な取組を進めていく必要がある。</p>						
埼玉県立図書館協議会（サービス評価小委員会）によるコメント						
<p>ジャパンサーチ上の「埼玉県」ページの活用に関する教員向けの動画の作成や、県庁オープンデーの参加など新たな取組が見られる点は評価できる。情報提供ツールの活用について外部機関との連携も含めたもっと積極的な広報をしてほしい。電子書籍の導入についても引き続き検討を進めてほしい。</p>						

令和6年度 埼玉県立図書館【重点取組評価シート】

基本方針	県民の自発的・主体的な活動を支援するとともに、新たな価値創造に向けた多様な交流機会を提供する					
重点目標4	県民の自発的・主体的な活動支援及び交流機会の創出を通じた県民の価値創造への活動支援の充実					
重点取組	4-1	県民の自発的・主体的な活動の支援				
	4-2	オンラインを活用した事業の推進				
	4-3	集合型事業による交流機会の創出・提供				
	4-4	県民の新たな価値創造に向けた機会創出の方策の検討				
評価	R4年度	A	3か年 最終評価	A	達成水準 評価	S・・・目標に達している
	R5年度	A				A・・・目標の8割以上に達している
	R6年度	A				B・・・目標の5割以上に達している C・・・目標の5割未満である D・・・成果・進捗がほとんど見られない
数値目標 達成状況	県民向け主催事業数 (①オンライン活用、②ワークショップ導入)	投入	目標値	R4年度	R5年度	R6年度
		実績値	①22回②11回	①23回②11回	①24回②12回	
		達成率	①141%②100%	①157%②264%	①158%②250%	
		評価	S	S	S	
	県民向け主催事業参加者数 (①オンライン活用、②ワークショップ導入)	活動	目標値	①②各1,920人	①1,950人②1,920人	①1,980人②1,940人
		実績値	①2,332②1,691人	①4,105人②3,566人	①1,034人②3,679人	
		達成率	①121%②88%	①211%②186%	①52%②190%	
		評価	A	S	A	
	県民向け主催事業参加者満足度* (①オンライン活用、②ワークショップ導入)	成果	目標値	①②とも4.5以上	①②とも4.5以上	①②とも4.5以上
		実績値	①4.5②4.8	①4.7②4.6	①4.6②4.6	
		達成率	①100%②106%	①104%②102%	①102%②102%	
		評価	S	S	S	
困難な取組における進捗状況評価			重点取組4-1、4-4			A
困難な取組における進捗状況（R6年度）						
県民の自発的・主体的な活動の支援（重点取組4-1）の場として、2館合同の「県立図書館ボランティア交流集会」を開催した。この集会では、各種ボランティアの活動報告に基づく意見交換を行い、活動の活性化を図った。また、県民の新たな価値創造に向けた機会創出の方策（重点取組4-4）として、交流集会において参加者のグループによる「ヒトハコ本棚」の製作を企画・実施した。「ヒトハコ本棚」とは、特定のテーマで選んだ資料を、箱型のスペースに並べて作る展示のことである。「ヒトハコ本棚」の閲覧室内での展示やブログでの公開を通じて、参加者の「発見・気づき」を発信することができた。				進捗状況評価		
				S・・・予定どおりの進捗が見られる		
				A・・・8割程度の進捗が見られる		
				B・・・5割程度の進捗が見られる		
				C・・・取組に着手している		
				D・・・取組に着手していない（要努力）		
				評価		
				S		
令和6年度総括						
上記4-1、4-4の取組のほか、オンラインを活用した事業の推進（重点取組4-2）では、音訳者養成講座参加者の復習のための記録動画配信、情報の探しかた講座の後日配信、2つの会場と参加者をつなぐボランティア交流集会など、目的や内容に合わせてオンラインを事業に取り入れた。コロナ禍の収束により、大規模イベントの開催方法を見直したことから、参加人数の目標値は達成には至らなかったものの、事業数・満足度は達成した。集合型事業による交流機会の創出・提供（重点取組4-3）は、女性のための起業入門セミナーや親子ふれあい講座など、参加者同士の対話が生まれるワークショップを取り入れた事業を継続的に実施し、すべての数値目標を達成した。						
3か年（R4～R6年度）の総括						
重点取組4-1では新たに「ボランティア交流集会」をスタートさせ、継続的に開催することができた。重点取組4-2ではオンラインを活用した事業を積極的に開催し、時間と場所にとらわれない参加機会を提供できるようになった。重点取組4-3はワークショップを取り入れた事業を実践し、職員のファシリテーション能力の向上を図りながら参加者同士の交流機会を創出した。重点取組4-4では、交流による価値創造の機会は増えているものの、図書館利用で得た「発見・気づき」を発表する場の設定は、ボランティアからの「ヒトハコ本棚」による発信にとどまった。						
全体的には成果が見られた。今後は、県民の自発的・主体的な活動をさらに支援するとともに、県民の価値創造を促進するための取組を強化していく必要がある。						
埼玉県立図書館協議会（サービス評価小委員会）によるコメント						
イベントのハイブリッド開催など、参加者の選択肢が増える形で事業実施を継続できていることは評価できる。他機関等とも連携をして、ヒトハコ本棚のような県民同士のコミュニケーションの充実を図る取組をさらにすすめてほしい。ボランティア活動の成果のフィードバックや見える化ができるとよい。						

令和6年度 埼玉県立図書館【重点取組評価シート】

基本方針	市町村立図書館・学校図書館、関連機関等との連携などを進め、図書館ネットワークの中核としての機能の充実を図る。							
重点目標5	図書館ネットワークの中核機能の充実							
重点取組	5-1	県内市町村立図書館・学校図書館、関係機関等への運営支援と連携の充実						
	5-2	司書等専門職員の人材育成（研修）の強化						
	5-3	先進的な事業の実施・普及						
	5-4	横断検索機能の拡充						
評価	R4年度	S	3か年 最終評価	S	達成水準 評価	S・・・目標に達している		
	R5年度	S				A・・・目標の8割以上に達している		
	R6年度	S				B・・・目標の5割以上に達している C・・・目標の5割未満である D・・・成果・進捗がほとんど見られない		
数値目標 達成状況	図書館等職員向け研修・講座の 開催回数	投入	目標値	R4年度	R5年度	R6年度		
			実績値	30回	30回	30回		
			達成率	110%	120%	140%		
			評価	S	S	S		
	先進的な事業・業務の相談件数	活動	目標値	430件	430件	430件		
			実績値	986件	921件	1,019件		
			達成率	229%	214%	237%		
			評価	S	S	S		
	県立図書館職員が講師を務めた 研修・講座等の参加者満足度* <small>*参加者満足度：5段階評価（参加者対象のアンケートにより算出）</small>	成果	目標値	4.5以上	4.5以上	4.5以上		
			実績値	4.7	4.8	4.7		
			達成率	104%	107%	104%		
			評価	S	S	S		
困難な取組における進捗状況評価			重点取組5-4			A	S	S
困難な取組における進捗状況（R6年度）								
横断検索機能の拡充（重点取組5-4）については、検索画面や図書館ウェブサイトのご案内などを修正した。また、大学図書館9館からの参加申請手続きを進め、横断検索システムで大学図書館の蔵書を検索できるようになった。 県内所蔵資料の活用を促進するため、横断検索の参加有無にかかわらず、県内大学図書館へ横断検索のバナー・リンク設置を依頼した。これをきっかけに、さらに大学図書館1館が横断検索に参加し、大学図書館の検索対象館は合計10館となった。				進捗状況評価				
				S・・・予定どおりの進捗が見られる A・・・8割程度の進捗が見られる B・・・5割程度の進捗が見られる C・・・取組に着手している D・・・取組に着手していない（要努力）				
				評価				
				S				
令和6年度総括								
県内市町村立図書館等への運営支援（重点取組5-1）として、情報交換掲示板の設置、市町村立図書館への訪問相談を新たに開始した。訪問相談から個別の職員研修（重点取組5-2）へと発展したのもあった。また、研修資料や動画は図書館協力ウェブサイトですべて共有した。そのほか、学校図書館講座や参考調査研修会など各種研修を実施し、図書館関係職員の人材育成に努めた。先進的な事業の実施・普及（重点取組5-3）では、県庁オープンデーなどの外部イベントに出展し、事業の広報を行った。 困難な取組を含め、各取組とも十分に成果をあげることができ、数値目標も大きく超えることができた。								
3か年（R4～R6年度）の総括								
先進的な事業の実施・普及（重点取組5-3）については、ビジネス・ライブラリアン研修や多文化サービススタート講座などを継続して実施し、サービスの普及に努めた。普及の取組が県内市町村立図書館への運営支援（重点取組5-1）へと繋がり、運営支援をきっかけとして職員向け研修実施（重点取組5-2）に結びついた。このことから数値目標は3か年を通してすべて目標値を超え、特に先進的な事業・業務の相談件数は当初の目標を大幅に上回る実績を残すことができた。 横断検索機能の拡充（重点取組5-4）については、連携先を県内大学図書館とし、参加を希望した10館の蔵書が横断検索システムで検索できるようになった。拡充後は減少傾向だった横断検索画面へのアクセス数が微増に転じている。今後は新県立図書館の整備の方向性を見据えた図書館ネットワーク充実のための展開を検討する必要がある。								
埼玉県立図書館協議会（サービス評価小委員会）によるコメント								
研修内容が充実していて満足度が高いことは評価できる。今後、経験の浅い職員のニーズの把握も含めた研修の充実を図ってほしい。大学図書館や公共図書館等の連携が進んでいる点も評価できる。図書館職員間のコミュニケーションにチャットツールを活用するなど、図書館ネットワークのさらなる充実を図ってほしい。								